

孫育ての
はじめ②

子ども夫婦との つきあい方



世代も経験も違うのだから、考え方や常識が違って当たり前。
お互いを尊重しながらいい関係で育児をするための心得をご紹介します。
このページはぜひ祖父母世代と子ども世代でお読みください。

～いい関係をつくるための6つの心得～

① 育児の主役はパパとママ。あくまでもサポート役と心得て

祖父母世代がそうだったように、経験を積むことで親になっていくもの。育児の主役は子ども夫婦。自分たちは2人のサポート役と心得て、やりすぎないように注意して。

子ども世代への
アドバイス

まずは主役であるパパママの話し合いが大切。育児方針や役割分担を決め、祖父母世代にはフォローをお願いして。

② 自分の育児経験に固執せず、いまどきの子育ても受け入れて

子育てを取り巻く環境の変化や医学の進歩などにより、育児の常識や考え方が変わってきています。現在の育児方法を学ぶ姿勢を大切に。

子ども世代への
アドバイス

祖父母と育児方法が違うときは、頭から否定せず、変化していることを伝えて理解してもらいましょう。

頼りすぎも
よくないですね



口を出したくても
我慢、我慢



③ 孫を預かるとき、病院に連れて行くときは事前に情報収集

食習慣や生活習慣を確認してから預かるとお互いに安心。通院の際は詳しい症状や服用している薬などをパパママに確認して。病院に薬を持参してもOK。

子ども世代への
アドバイス

日頃から育児方針を伝えておくことはもちろん、特に伝えたいことはメモにして渡すとスムーズです。

④ パパの育児参加の機会を奪わないで

祖父母が手を出しすぎて、パパがお世話をする機会を奪うのはNG。いまや「イクメン」が当たり前。パパの育児参加を積極的に応援してあげて。

子ども世代への
アドバイス

休日など時間があるときはパパも積極的に関わって。子どもとのスキンシップは親子の絆を深めてくれます。ママに休日をあげることも必要です。

⑤ よその孫と比べる発言はしないで

孫を思うあまりかけた言葉がママを傷つけてしまう…。こんな悲しいすれ違いを防ぐため、大らかな気持ちで孫の成長を見守り、ママの気持ちに配慮した言葉かけを。

子ども世代への
アドバイス

子どもの成長と発達には個人差があります。よその子や育児本にとらわれず、日々の成長を大切に。心配なときは保健師や保育士などの専門家に相談してみて。

⑥ 自分たちの生活を優先、無理しないのが長続きのコツ

フルタイムで働く祖父母世代も多く、一方で体力や気力が衰えているのも現実。頑張りすぎず、忙しいときや体調が悪いときは断ることも大切です。

子ども世代への
アドバイス

親しき仲にも礼儀あり。「〇時までには帰る」といった約束は守り、サポートしてもらったらその都度「ありがとう」と感謝の気持ちを言葉にして。